

令和3年度鹿児島県歯科口腔保健推進協議会の開催結果について

- 1 日時 令和3年7月14日（金）15：00～16：30
- 2 場所 行政庁舎18階 特別会議室
- 3 出席委員 14名（代理出席5名を含む）
伊地知会長，森永委員（代理：吉松副会長），大西委員，於保委員，
田畑委員，下川委員，児玉委員（代理：油田理事），
湯元委員（代理：濱田保健福祉部長），大山委員（代理：田村保健師），
赤星委員，神村委員，松岡委員，東條委員（代理：龍保健体育課長），
谷口委員
- 4 傍聴者
1名
- 5 内容
 - (1) 報告
 - ア 本県の歯科口腔保健の現状について
 - イ 令和3年度の県及び市町村並びに各団体の取組について
 - ウ 鹿児島県口腔保健支援センターの設置に係る相談実績について
 - エ 令和2年度「鹿児島県歯科口腔保健推進協議会」実務関係者検討会報告について
 - (2) 協議
 - ア 成人期以降の歯科口腔保健対策について
 - イ 令和3年度「鹿児島県歯科口腔保健推進協議会」実務関係者検討会テーマについて（案）
- 6 主な意見
 - 職域における健康診断の中に歯科口腔診断の実施など，民間から制度が進んでいくとよいと思う。
入院時の医科と歯科との連携が必要である。がん治療の前に必ず歯科衛生士が専門的口腔ケアを実施されているところも多くなってきている。歯科衛生士を病院へ配置ができればよいと思う。
 - 高齢化すると，摂食嚥下の問題が必ずついてくる。健診事業の中に，この特定健診特定保健指導と併せて口腔ケアの健診が入るとよいと思う。
 - 76歳の歯ッピー健診の案内があり受診した。パタカラなど口腔機能の検査を受けたが，日頃実施しないため難しかった。周りの方に76，80歳の歯ッピー健診についてPRしているが，知らない方が多くそこが問題だと思った。
 - 問題はやはり意識改革で，幼い頃から歯科の大切さを伝えなければいけない。
歯科医院は，治療だけでなく，その人の口腔の健康を守ってくれる場所だという認識を持ってもらうような意識改革が必要であると思う。